



学 会 通 信

第 89 号

2019 年 1 月 31 日発行

目次

会長挨拶	2
2018 年度 第 25 回日本教育メディア学会年次大会お礼	4
2018 年度 第 2 回研究会のお知らせと発表の募集	6
国際学会 ICoME 開催のご案内	7
2018 年度 第 2 回企画委員会ワークショップのご報告	8
理事会（定例）議事録	10
定例総会議事録	13
論文投稿のご案内	15
学会費納入のお願い，入会者・退会者	15
訃報	17

会長挨拶

小柳和喜雄（奈良教育大学）

本学会は、「沿革」に記されているように、「視聴覚教育研究協議会」「放送教育研究協議会」そして「日本視聴覚教育学会」「日本放送教育学会」をその前身として、1998年から、現在の名称「日本教育メディア学会」として歩んで参りました。

まもなく時代は、平成から次の元号の時代を迎え、国をあげた大きなイベントとして、2回目の東京オリンピックを迎えます。偶然にも1回目の東京オリンピックの開催の年であった1964年に「日本視聴覚教育学会」が発足し、「放送教育」との関わりで言えば、2019年はNHK教育テレビが放送されて、今年で60年にあたります。

時代の転換期の中で、歴史ある本学会の第9期を担うことになり、その責任の重さを感じております。

学会は、基本的には、そこに参加する1人1人が、ある思いや考えを持って参加され、そこで学び合い、知見を蓄積していく場と考えています。そのため、会員が学会活動を通じて、満足でき、所属意識やアイデンティティを感じてもらえるように、運営を進めていくことが重要と考えております。

上記のことを大前提としながらも、私としては、この3年間は、先人が築かれた財産を継承しながら、次の新時代へ橋渡しする基盤作りを行うこととミッションとして、次の3点に、力点を入れて取り組んでいきたいと考えております。

1つ目は、日本教育メディア学会として歩み出して20年を経てきたこともあり、「歴史とその論理を振り返り、成果のまとめ、次への展望を示す」ことです。この20年、学会としてどのような歩みをしてきたかを丁寧に振り返り、記録として残して行きたいと思っております。学会の前史から何を引き継ぎ、時代やメディア環境の変化の中で、何に取り組んできたのか。学会としてどのような研究知見が蓄積され、社会貢献を果たしてきたのか。学会としての強み（存在意義）はどこにあるのか。次の時代の研究に向けて、我々は今どのように歩み出しているのか、何を指すのか。そして、この先10年後、20年後の学会の活動に向けてのヴィジョンをより明らかにできたらと思っています。

2つ目は、本学会が大事にしてきた「『教育内容に関心を向けた教育メディア研究の成果』と『教育方法に関心を向けた教育メディア研究の成果』を教育実践により積極的に活かしていく」ことです。2016年1月22日に閣議決定された第5期科学技術基本計画（2016年度～2020年度の5年間を対象）の中でSociety5.0が語られ、そしてそこでの検討事案を受けて、文部科学省が審議してきた内容（人材像、学校や学びの在り方、今後の教育政策の方向性等）が2018年6月5日に語られました。その中で、今後の学校のイメージとして学校ver.3.0が明らかにされ、次の学習指導要領が完全実施される2020年を前に、教育政策や学校での取組についても、その影響が見え隠れし始めています。その政策イメージは教育メディア研究から見てどのよ



うに判断できるのか、行政の動きと一定距離を保ちながらも、学会として、研究成果とその知見を生かしながら、学校の実践に貢献できること、また国の教育政策に対して、知見の提供等に貢献できたらと思っています。

最後に3つ目は、「国際的な研究交流の持続的な発展」です。本学会は、久保田元会長、鈴木元会長、黒上前会長等、関連の皆様のご努力によって、the International Conference for Media in Education (ICoME)を、毎年、他国と共同開催し、国際ジャーナル (International Journal of Educational Media and Technology) の発刊もしてきた実績があります。このような取組を実際に行ってきた経験を持つ国内の教育の関連学会は、見当たりません。それだけの実績を上げてきた学会であると思います。運営などで大変なことは承知しているのですが、会員全員が自負と当事者意識を持って、また次の世代の教育者、研究者が、国内の研究はもとより、国際的にも、よりその研究交流を進め深めていくことができるように、「国際的な研究交流の持続的な発展」を大切にしていきたいと思います。

上記のことは、皆様のご理解とご協力をもって可能となります。学会活動を通じて、教育実践、教育研究、社会に貢献ができるように、皆様のお力をお貸しいただければ幸いです。

2019年1月18日

2018年度 第25回日本教育メディア学会年次大会の御礼

大会実行委員長 山本朋弘（鹿児島大学）

第25回日本教育メディア学会年次大会は、2018年11月24日（土）・25日（日）に、鹿児島大学郡元キャンパスで開催され、200名を超える参加を得て、無事に終了することができました。本大会では、地元企画として、小学校プログラミング教育の公開授業（授業者：伊藤優一郎教諭，鹿児島大学教育学部附属小学校）を実施しました。公開授業は、県内外より多くの教員・教育委員会関係者に参観していただきました。また、授業終了後の協議においても、活発な議論が行われました。

課題研究では、「情報活用能力の育成に資するメディアを活用した教育実践」、「教員養成，教員研修での教育メディア研究の今」、「最先端のメディア研究」、「メディア教育の新しい展開」の4つのテーマを設定し、13件の発表



表がありました。各会場では、それぞれの領域や分野において活発な意見交換が行われました。一般発表では、ICTを活用した教育実践に関する研究，メディア・リテラシー教育や情報教育に関する研究，教師教育や教員研修に関する研究，国際協働学習に関する研究など，教育メディア研究に関する最新のテーマについて、40件の研究発表がありました。本年次大会においても、昨年度同様に発表時間20分とし、研究内容を丁寧に報告する時間を確保することを心がけました。その甲斐も有り、各分科会ともに活発な議論が行われていました。

さらに、本大会ではテーマの異なるシンポジウムを2つ実施しました。1日目に実施した鼎談『教育メディアのこれまでと展望』と題して、堀田博史氏（園田学園女子大学）のコーディネートで、黒上晴夫氏（関西大学），宇治橋祐之氏（NHK放送文化研究所）に登壇いただきました。2日目に実施したシンポジウムⅡでは、「新学習指導要領における教育の情報化の展開」というテーマのもと、折笠史典氏（文部科学省），稲垣忠氏（東北学院大学），山本悟氏（鹿児島県義務教育課），辻慎一郎氏（川内中央中学校）に登壇いただき、教育の情報化に関する現状と課題を共有して、今後のあり方についての議論が交わされました。

本大会では、発表予稿集を冊子にせずに、PDFファイルによる配布を行いました。また、現職教員の参加を促すこと、学会員を広く募集することの意味合いもあり、本大会においても昨年度同様に非会員の現職教員（幼・保・小・中・高）については、大会参加費を無料としました。それにより、多くの現職教員が公開授業をはじめとして、各種プログラムに参加していました。



最後に、皆様の温かいご支援とご協力により、何とか無事に終わられたことを改めて感謝申し上げます。また、本大会は、大会企画委員の中川一史委員長、中橋雄副委員長、鹿児島大学教育学部附属小学校の教職員・児童・保護者ほか多くの皆様の協力で行うことができましたことを申し添えます。今後の本学会の益々の発展を祈念しつつ、次期年次大会開催の徳島文理大学にバトンを渡したいと思えます。

2018年度第2回研究会のお知らせと発表の募集

テーマ「ICTを活用した授業実践と評価／一般」

国内研究会担当委員長：堀田博史（園田学園女子大学）

本企画担当：村川弘城（日本福祉大学）

ICTが世間一般的なものとなり、ICTを活用した授業は今や、特別な教員だけが実施する敷居の高いものではなくなりました。現在では、教員だけでなく、学習者側のICTの活用に関する授業実践も数多く行われています。

学習者がICTを活用することで様々な学習履歴が電子化されるようになり、教員による評価だけでなく学習者の自己評価などにも役立つことができるようになりました。教員主体の「何を教えたか」ではなく、学習者主体の「何ができるようになるか」の重視が明確化された今、改めてICTを活用した授業実践における評価の方法を探求したいと考えております。

そこで今回の研究会では、「ICTを活用した授業実践と評価」をテーマにした発表を募集します。その他、本学会がテーマとする内容に関する研究についての発表も募集します。

*日本教育工学会(JSET)研究会「ICTを用いた学習環境の構築/一般」と並行開催(同じ建物の別教室で開催)します。受付・研究報告集の購入は個別ですが、双方の研究会に参加できます。

開催日：2019年3月9日（土）10:00～（発表件数により開催時間は変わります）

場所：福井大学（文京キャンパス）

発表申し込み：2019年2月2日（土）まで延長（発表タイトルと著者名のみ）

原稿締め切り：2019年2月15日（金）（発表原稿をメールにてお送り下さい）

発表の申し込み、書式などは次のURLを参照ください。<http://jaems.jp/meeting/>

発表時間は30分（20分の発表と8分の質疑、入れ替わり2分）を予定しています。

国際学会 ICoME 開催のご案内

国際研究会担当委員長：岸磨貴子（明治大学）

ICoME (International Conference for Media in Education) 2019 は、今回で第 17 回目の実施となります。日本教育メディア学会 (JAEMS), 韓国教育情報メディア学会 (KAEIM), 中国教育工学会 (CAET), アメリカ TCC (Technology, Colleges and Community) オンラインカンファレンスとの連携によって、2019 年 7 月 23 日から 25 日に中国・深圳市にて開催されます。

ICoME は、国内外からの多くの教育研究者や実践者が集まり、教育メディアや教育技術に関する貴重な研究や実践の発表、共有の場となります。本会が、各国の研究者間で行われる互恵的な意見交換の場となりますよう、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

開催日：2019 年 7 月 23 日（火）－25 日（木）

場所：Southern University of Science and Technology・深圳市（中国）

発表申し込みや論文提出のスケジュールなど詳細につきましては、決定次第以下のウェブページよりお知らせいたします。

ウェブページはこちら：<http://jaems.jp/icomel/>

2018年度 第2回企画委員会 ワークショップのご報告

第2回企画委員会 ワークショップ 「教育の海外展開に関する国際シンポジウム」

企画担当者：久保田賢一（関西大学）

時任隼平（関西学院大学）

2019年1月12日（土）、関西大学梅田キャンパスに於いて、教育メディア研究の国際的な広がりを目指して「教育メディア研究の海外展開～生起する「摩擦」に着目して～」と題した国際シンポジウムを実施しました。28名の参加がありました（パネリストや通訳を含む）。



「海外展開」と「摩擦」をキーワードとする本シンポジウムの目的は、我が国において蓄積されてきた教育メディア研究の知見を海外で活用する際に生じる「摩擦（Friction）」を多様な観点から議論することでした。

近年、文部科学省日本型教育の海外展開推進事業（EDU-Port ニッポン）など日本の教育知見を海外展開する活動が増加してきていますが、日本の教育知見を文化的背景の異なる国で活用するには様々な問題が生じる可能性があると考えられます。そこで、本シンポジウムではそのような問題を「AとBの間で生じる摩擦」として捉え、その具体的な状況を事例に基づいて議論するため、本ワークショップを企画しました。

前半に、3名からの事例報告により教育の海外展開の際に生じている（または生じる可能性がある）「摩擦」を共有した上で、後半にフロアーも交えたディスカッションを行いました。

カンボジア・Siem Reap Teacher Training CollegeのNhem Saroeun氏からは、同校における教員養成の歴史的経緯と現状の紹介の後、EDU-Portプロジェクトの一環として英語教員養成の成果の報告がありました。同校の教育実習生がビデオクリップを活用した新しい教授法を習得していること、日本とカンボジア両国のメンバーの学校訪問によりメディア利用の指導法や文化を交流・共有していること等の成果が示されました。

ミャンマー・Yangon University of EducationのThida Wai氏からは、進行しつつある教育改革の状況の紹介に続いて、その一例として、小学校科学・環境教育指導者養成プログラムの成果の報告がありました。クラスサイズが大きいこと、新カリキュラムに対応するための教師の質向上の必要性、不十分な資金・設備等、解決すべき課題があることを踏まえて、このような状況を認識した上で新しい指導法を広めていく必要性とその際に生じうる「摩擦」が提起されました。

UNESCO Educational ConsultantのFerdinand Blancaflor Pitagan氏からは、フィリピン・De La Salle Universityと関西大学の学生交流プロジェクトの成果の報告がありました。メディアを活用した遠隔ミーティングと相互訪問による対面活動とのブレンディッド学習により環境問題に取り組むことを通

して、異文化理解や国際協力の重要性の認識が促進されました。プロジェクトの効果を高めるためには、プロジェクトに参加するメンバーの選考、プロジェクト参加への教育機関による承認、参加メンバー及び関係者への事前説明等が重要であることが示唆されました。

後半は、各参加者の自己紹介に引き続いて、時任隼平氏（関西学院大学）のコーディネートにより、教育メディア研究の海外展開について意見交換が行われました。海外の教育現場で日本の教育メディア研究に関する知見を共有して貢献しようとする際に留意すべき点として、次のような点が話題になりました：(1) 新しい教育内容や指導方法の利用・導入時には、その国の文化や環境に適応させること、

そして、教育制度や基準に適合させて認可が必要な場合もあること、(2) その国の教育に日本あるいは日本以外の国が、その国の教育（教科書、指導法、内容等）に介入することによる現地の受け止め方を考慮すべきであること、(3) メディア導入にあたっては、予算の確保に加えて、電気設備の有無等地域性への配慮や人的サポートが必要であること、(4) 学校教育における“Good Practice”はその国の文化により異なること、など。



最後に、企画担当者の久保田賢一氏（関西大学）から、本日参加のカンボジア、ミャンマー、フィリピンとの交流を継続していくことを通して、日本及び各国の教育メディア研究を発展させていくという展望が示されて、閉会となりました。

文責：谷塚光典（信州大学）

理事会（定例）議事録

第8期 第7回理事会 議事録

[日 時] 2018年11月23日（金）15:00-16:00

[場 所] 鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター2階演習室

[出席予定者] 会長，理事19名，委任状（会長に一任）5名

会長 黒上晴夫

理事 浅井和行，稲垣忠，宇治橋祐之，浦野弘，小柳和喜雄，影戸 誠，久保田賢一，佐藤慎一，佐藤幸江，鈴木克明，寺嶋浩介，永田智子，中川一史，中橋 雄，長谷川透，堀田龍也，山本朋弘，林向達，渡辺雄貴

欠席 岸磨貴子，後藤康志，鄭仁星，堀田博史，村上正行，村野井 均

監事 生田孝至（欠席），佐々木輝美（欠席）

事務局 山本良太，泰山裕

<審議・報告事項>

（1）入会者・退会者・除籍者について（事務局） 【資料1】

事務局長から，前回理事会以降の入会者・退会者・除籍者について報告があり，審議の結果承認された。

（2）第9期会長・理事選挙結果について（事務局）【資料2】

事務局長から，第9期会長・理事選挙結果について報告があり，審議の結果承認された。

（3）日本教育メディア学会論文賞の選考結果について（日本教育メディア学会論文賞選考委員会）【資料3】

論文賞選考委員会委員長から，日本教育メディア学会論文賞の選考過程と受賞論文について報告された。

（4）編集委員会（国際担当） 【資料4】

編集委員会（国際担当）副委員長から ICoME Journal について ICoME コンカレントセッションの発表者に加えて，JAEMS，KAEIM，CAET 会員に対して論文投稿を認める方向で検討していることが報告され，審議の結果承認された。

また，検討を進めていた日本教育工学会，教育システム情報学会との合同英文誌の発行については現時点では保留し，今後も情報共有をしながら検討を進めることが報告された。

同時に ICoME Journal の J-Stage 登録，OpenJournal システムでの運用を検討していることが報告された。

（5）研究委員会（国際担当） 【資料5】

研究委員会（国際担当）委員長から ICoME2018 の開催報告と，ICoME2019 の計画について報告された。ICoME2019 は7月23日-25日，中国，南方科技大学を会場に開催を計画していることが報告された。

(6) 企画委員会 【資料 6】

企画委員会委員長から 2018 年度の開催報告と今後の予定について報告された。

(7) 研究委員会 (国内)

研究委員会 (国内担当) 副委員長から研究会の開催報告と今後の予定の報告がなされた。

(8) 編集委員会

編集委員長から過去 3 年間の採択状況の報告と 2018 年度の論文誌の発行予定について報告された。

(9) 総会資料について (事務局)

事務局から総会資料や当日の議案について報告された。

(10) その他

・団体規約について 【資料 7】

事務局から団体会員の規約案の作成について報告され、団体会員規約について議論が行われた。

今後、事務局から規約案を作成し、提案することが了承された。

・学会の今後の課題について 【資料 8】

事務局から会員数の推移や財務状況について報告され、今後の方向性について議論が行われた。

以上

第 9 期 第 1 回理事会 議事録

[日 時] 2018 年 11 月 23 日 (金) 16:00-17:00

[場 所] 鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター 2 階演習室

[出席者] 会長, 理事 21 名, 委任状 (会長に一任) 5 名

会長 小柳和喜雄

理事 浅井和行, 稲垣忠, 岩崎千晶, 宇治橋祐之, 影戸誠, 久保田賢一, 黒上晴夫, 今野貴之, 佐藤慎一, 鈴木克明, 泰山裕, 寺嶋浩介, 中川一史, 永田智子, 中橋雄, 長谷川透, 堀田龍也, 山本良太, 林向達, 渡辺雄貴

欠席 岸磨貴子, 後藤康志, 鄭仁星, 堀田博史, 村上正行

監事 浦野弘, 佐々木輝美 (欠席)

事務局 池尻良平

<審議・報告事項>

(1) 理事会役員について

会長から第 9 期理事会役員の前案が示され、審議の結果承認された。

(2) 各種委員会設置および委員長の委嘱について

会長から第 9 期に設置する委員会が提案され、審議の結果承認された。また、会長から各委員会担当の委員長が提案され、審議の結果承認された。

(3) 第 9 期特命部署としての「渉外」設置について

会長から今期の体制において、関連学会間での連絡を密にするため、「渉外」を設置することが提案され、審議の結果承認された。また、鈴木理事に「渉外」特命担当理事として就任いただくことが提案され、審議の結果承認された。

(4) 理事の選出について

会長より年次大会委員会の副委員長として、2019年度の大会校である徳島文理大学の林氏に就任いただくことが提案され、審議の結果承認された。林理事より第26回日本教育メディア学会年次大会を2019年11月2日（土）3日（日）に徳島文理大学で開催予定であることが報告された。

(5) 監事の推薦について

会長から幹事として浦野氏、佐々木氏が推薦されたことが報告された。

(6) 各委員会委員の推薦について

各委員会委員長から委員が推薦され、審議の結果承認された。

(7) 各委員会担当副会長について

会長より、編集委員会（国内・国際）、研究委員会（国際）、日本教育メディア学会論文賞選考委員会を中橋副会長、研究委員会（国内）、企画委員会、広報委員会、年次大会委員会を宇治橋副会長が担当することが提案され、審議の結果承認された。

(8) 各種委員会から今後の方針等が報告された。

(9) 次回理事会の日程について

4月20日（土）または21日（日）が予定されていることが報告された。

以上

定例総会 議事録

日時：2018年11月24日（土）12：30－13：00（年次大会第1日目）

場所：鹿児島大学第1講義棟103講義室

内容：

（1）議案

議事に先立ち、事務局長から、有効な委任状が37通と、議決権行使（議案への賛成）が5通、電子総会システムより提出され、出席者が52名のため、学会会則第44条に従って2018年度定例総会が成立していることが報告された。また、会場校を代表して山本大会実行委員長より挨拶があった。

第1号議案：2017年度事業報告及び収支決算承認の件

事務局長から資料に基づいて、2017年度事業経過及び結果（機関誌発行：教育メディア研究および学会通信の発行、第24回年次大会の開催、学术交流等：研究会、ICoME2017、ワークショップの開催等）についてそれぞれ説明があった。監事から通帳、会計書類等適正に処理、保管されていることが報告され、審議の結果、2017年度収支決算（案）が異議なく承認された。

第2号議案：2018年度事業計画及び収支予算承認の件

事務局長から資料に基づいて、2018年度事業計画（機関誌発行：教育メディア研究および学会通信の発行、第25回年次大会の開催、学术交流等：研究会、ICoME2018、ワークショップの開催、電子選挙化に向けた準備等）についてそれぞれ説明があった。審議の結果、2018年度収支予算（案）が異議なく承認された。

第3号議案：第9期会長・理事・監事承認の件

選挙規程第15条および27条により、会長および理事候補が提案され、異議なく承認された。また、監事候補者についても異議なく承認された。

（2）報告事項

①表彰「日本教育メディア学会論文賞」審査経過と結果報告

堀田日本教育メディア学会論文賞選考委員会委員長より「日本教育メディア学会論文」審議経過と結果が報告され、表彰が行われた。

受賞者名：三宅貴久子・岸磨貴子・久保田賢一・李克東

論文名：シンキングツール導入4年後にみられた中国の授業実践の評価

掲載論文誌：教育メディア研究 第24巻第1号（研究論文）

②名誉会員表彰の件

会則第11条にもとづき、生田孝至会員が名誉会員として理事会より推薦されたことが報告され、表彰が行われた。

③2019 年度年次大会の件

次年度の年次大会について、2019 年 11 月 2 日（土）・3 日（日）に徳島文理大学で開催する計画であることが、会場校担当の林会員より報告された。

④ICoME2019 の件

影戸国際交流委員会委員長より、ICoME2019 が、中国・深圳市にて 2019 年 7 月 23 日（火）－25 日（木）の期間で開催されることが報告された。

⑤その他

- ・鈴木編集委員長より論文投稿の募集が行われた。
- ・佐藤編集副委員長（国際）より、IJEMT の論文投稿の募集が行われた。
- ・久保田企画副委員長より、2019 年 1 月 12 日（土）13：00～16：00 に、関西大学梅田キャンパスにおいて「教育メディア研究の海外展開：生起する「摩擦」に注目して」というシンポジウムが開催されることが案内された。

以上

論文投稿のご案内

編集委員会（委員長／黒上晴夫：関西大学）

〆切：随時

『教育メディア研究』では、一般論文を広く募集しています。〆切は特にありません。随時受け付け、その都度、査読プロセスを始めています。多くの会員の方からの投稿を期待しています。

学会費納入のお願い，入会者・退会者

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2018年度（2018年4月1日から2019年3月31日）の年会費（正会員7,000円，学生会員4,000円）が未納の方は，下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨンイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガクカイ）
--

- ※ 振込手数料は，ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合，手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は，振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後，事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には，学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は，学生・大学院生（社会人学生を除く）です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください（スキャナ，デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます）。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では，「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また，学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために，学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は，事務局までメールアドレス，お届け先住所の情報をお送りくださるよう，よろしく願いいたします。

【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・正会員 (6名)・・・斉藤雄次, 小田理代, 多田泰紘, 竹中喜一, 高谷浩輔,
畠山久

退会者・正会員 (5名)・・・望月耕太, 吉田雅巳, 野田啓子, 笠原正大, 坂東宏和

種別変更 (1名)・・・三宅貴久子

会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条の改正が承認されました。改正された規定では、会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。

会費の納入状況についてご不明な点がありましたら、事務局 (office@jaems.jp) までご連絡ください。

第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

(1) 正会員, 学生会員, 団体会員ならびに購読会員が, 会費を3年間滞納したとき, その年度末をもって除籍され, 会員の資格を喪失する。

(2) 除籍された元会員が再入会するとき, 滞納会費の納入を要する。

会員総数 375名・17団体

名誉会員 : 3名

正会員 : 318名

学生会員 : 37名

団体会員 : 6団体

購読会員 : 11団体

(平成31年1月21日現在)

訃 報

本学会の前史の学会から、多大なご支援と御指導をしていただいた水越敏行（みずこしとしゆき：三重県出身）先生（大阪大学名誉教授，元関西大学教授，平成 24 年度より本学会名誉会員）がお亡くなりになりました。

○2019 年 1 月 1 日午前 8 時 50 分，肺炎のため金沢市の病院で逝去。享年 86 歳。

○家族の強いご意思で，葬儀・告別式は近親者で行われました。

なお香典等は，ご辞退されておられます。

先生のご冥福を心からお祈りしたいと思います。

日本教育メディア学会 事務局	広報委員会
〒673-1494 兵庫県加東市下久米 942-1 兵庫教育大学 永田智子 研究室内 E-mail : office@jaems.jp 学会ホームページ URL : http://jaems.jp/	委員長 渡辺雄貴（東京理科大学） 副委員長 岩崎千晶（関西大学） 委員 井ノ上憲司（大阪大学） 遠海友紀（京都外国語大学）